

## 事業の実施状況及び成果等報告書

団体名 : 京都Tera.Coya

事業名 : てらこや子ども食堂

活動期間: 平成30年 5月 1日 ~ 平成31年 2月 9日

### 【活動内容】

左京区養正福祉センターにて、在日フィリピン人のシングルマザーの子どもたちを対象に学習支援を併設した子ども食堂を毎週土曜日に開催。開催回数37回、延べ人数346人

①てらこや子ども食堂

②Tera.Coya Freeschool

・青空教室・食農活動

### 【てらこや子ども食堂】 (9月29日より第1、第3土曜日開催)

”食と居場所”を焦点に地域の子どもたちやその母親・近隣住民に対し食事と居場所を提供。ひとり親家庭の子どもたちが多く一人で過ごす時間や食事が多いため、バランスの良い食事をみんなで食べることを重点に置いた居場所として機能することを目的としている。

在日フィリピン人の子どもが多く日本の食文化に馴染んでもらうために、メニューに対して栄養面、文化性などを考慮しながら月ごとにミーティングで決定し、2ヶ月に一度はフィリピンの文化的な食事も提供している。

食農活動として畑で子どもたちと野菜を育て、採れた野菜を使用することで自給自足的に賄いながら、食事への意識を大切にしている。また宿題などを中心とした学習支援を同時に行っており、子どもたちが苦手とする場所を様々な形で進んで学習に取り組める工夫をしている。

### 【Tera.Coya Free School】 (5月12日より第2、第4土曜日開催)

”学び”を焦点にした取り組み。

在日フィリピン人の家庭での大きな課題として学校での授業進行についていきにくいことや、親が日本語の理解が難しいことから勉強を教えたり、学校からの通達が子どもにうまく伝わらないなどのことがある。

・学校からの宿題や定期的なテストから、苦手な部分や引っかかっている所を学生の考えた独自の教材を用い取り組んでもらったり、“一緒に考える”ということを重点的に楽しく学べる工夫をしている。

・机の上の勉強だけではなくモノづくりや子どもたちの自由なアイデアを学生と一緒に形にしていくことや経験としてみんなでどこかへ出かけたり、農業などの課外活動も行なっている。

### 【その他の活動】

・毎週水曜日

ハピネス子ども食堂へのボランティア、ハピネス子ども食堂でのTera.Coya学習会開催

・毎週木曜日

東九条子ども食堂へのボランティア、実行委員

・10/21 キッズハロウィン参加

・11/25 南区 洛南イオンマルシェへの参加

・11/25~中京区まちづくり支援事業(現在進行中)

・3/10 キッチンあらしやま 子ども食堂フォーラム参加



### 【活動の成果】

左京区での子ども食堂の開設によりJFC（Japanese-Filipino Children）の実態を始め、ひとり親家庭の現状・地域の資源の少なさなど様々な問題を身近に感じることができた。

学習支援と子ども食堂を一体型とした取り組みは、孤食や子どもが一人で過ごす時間を減らすだけでなく、学習支援やコミュニケーションをベースとした体験や経験を組み合わせることで子どもたちの選択肢の幅を拡げる事ができた。フィリピンのサポート団体と連携し、子どもたちの親たちと情報交換しながらコミュニティを築くことができた。少しずつではあるが、子どもたちの親も参加してくれるようになってきた。

また活動に取り組む学生にとっても問題意識を身近に感じることで、それぞれができることを展開し自己効力感を高めることができる場であるとともに、将来的に子ども食堂の絶対数を増やすなどといった中期的な取り組みの足がかりともなった。

### 【今後の課題】

- ・現在はJFCを対象とした子ども食堂と学習支援を行なっているが、その数はほんの一部分でしかなく、もっと広域で支援できる体制が必要である。また子ども食堂が地域と連携していく必要性があり、その認知度と理解も課題の一つである。

- ・学生が多く関われることは子どもにとっても学生にとっても非常に良い効果があると感じているが、継続性という課題について体制を整えていく必要がある。

- ・親や子どもたちの通う学校などと連携し、情報交換をしながら問題を共有していく必要がある。